

# 2024 年度（令和 6 年度） 福山市立瀬戸小学校研究推進計画

教育研究部

《学校教育目標》

**自ら考え、学び合い、ともによりよく生きる子どもの育成**

《研究主題》

**自らの考えをもち、伝え合い、深め合う学びづくり  
～主体的な学びにつながる「問い」の形成を通して～**

## 《研究主題設定の理由》

本校では「課題意識や問いを持ち、自ら取り組んでいく主体的な学び」づくり、すなわち児童が「学ぶことが楽しい・面白い」と感じる学びづくりを進めていく。そのためには「分かる・面白い」と実感できるための土台となる基礎学力の定着が不可欠となる。基礎学力の定着のために、単なる繰り返しを行うのではなく「なぜ学ぶ必要があるのか。」「どのように学ぶことが必要なのか。」という目的意識を明確にする。子ども一人一人が目標を持って学び、目標に向かって「学ぶ方法」を身に付けられるようにしたい。

令和 5 年度の全国学力・学習状況調査 児童質問紙調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という問いに対する肯定的な回答をした児童は 72.1%であった。これは、全国平均の 78.8%と比べ、-6.7 と下回っている。その他の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目も、全国平均を下回っていた。同調査における国語科の正答率は 57.4%、算数科の正答率は 57.0%であった。この結果を全国平均と比べると、国語科-9.8、算数科-5.5 いずれも 5 ポイント以上下回っている。

学力の伸びを把握する調査によると、令和 4 年から令和 5 年の間に学力を伸ばした児童の割合は、福山市内の平均と比べ、国語科 5 年+3.2、6 年+5.0 算数科 5 年-2.6、6 年+0.4 であった。国語科の学力は概ね伸びているが、算数科に課題が残っている。

福山市の分析結果から、児童が主体的に学びに向かう意識と子どもたちの学習方略の改善や非認知能力の向上に相関関係があること、教師の意識と児童の意識に大きな差があることが明らかになった。教師は取組を進めていると感じているが、実際には、児童は主体的な学びに向かっておらず、結果として学力の向上につながっていないということである。これらを踏まえて、学習内容の質を追求すること、認知の仕組みから学習方法の見直しを進めること、の必要性が示された。

本校の学校教育目標に伴うめざす授業の姿としては、全ての子どもたちが、①「自ら問いをもち、考えている」②「考えたことなどを、伝え合い・聴き（訊き）合いながら、広げたり・深めたりしている」③「（見通しを立てたり、振り返ったりしながら）粘り強く学んでいる」授業を掲げている。教師は、このめざす授業の姿を念頭に、学校教育活動の中心である日々の授業を、より質の高いものにするべく自主研究を進めていく。さらに、校内研修・協議を重ね

ることで、指導内容に対する専門性を高め、授業力の向上を目指す。

平成 31 年度広島県教育資料によると、「授業力」とは、授業の「ねらい」の達成を目指し、授業を適切にマネジメントする能力とある。つまり、授業を計画、実施、評価、改善する力であり、次の四つの要素（①授業を企画し構想する力、②児童生徒の状況に応じて適切に指導する力③授業を評価する力④授業を改善する力）から構成される。

教師が「授業力」向上を目指し、子どもたちとともに「学びが面白い」にチャレンジし、子どもの「分かった・できた・面白い！」を引き出す授業づくりを進めるため、本年度研究主題『自らの考えをもち、伝え合い、深め合う学びづくり ～主体的な学びにつながる「問い」の形成を通して～』を設定する。

## 《研究のねらい》

児童は、これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜いていかななくてはならない。21 世紀型スキル&倫理観の育成を図るためにも、自ら課題を見だし、目標を設定し、達成するための解決手段や方法を考え実行し、考えたことを振り返ることが求められる。その際、生活経験やこれまで学んできた知識、根拠をもとに考え、見直し、振り返っていく思考力や表現力をもつことが重要となる。

先に述べたような力を児童が身に付けるためには、教師自らが、子ども主体の学びづくりに「挑戦・追求（工夫・改善）」することが、必要である。教師の「挑戦・追求（工夫・改善）」が「子どもの学び（学力向上）」につながるのか、国語科の授業を通して仮説・検証を行うことによって明らかにしていくことをねらいとする。

## 《研究仮説》

児童の主体的な学びを促す「問い」を設定し、フレームリーディングを通して読みを深め、考えを形成することができれば、主体的・対話的で深い学びができるようになり、自ら問いや考えをもち、解決に向けて最後までやりぬく児童が育つであろう。

## 《研究内容と検証方法の例》

本校の教師は、国語科から「挑戦・追求単元」を自ら選び、フレームリーディングを通して、子どもたちとともに「学びが面白い」にチャレンジする。その際、先に述べた「授業力」四つの要素から、②児童生徒の状況に応じて適切に指導する力（個に応じて分かる授業を展開する力、また、児童の意見を集約したり焦点化したりしながら内容を理解させたり、思考を深めさせたりするなど、授業の中でコーディネートする力）の向上に焦点化して授業改善を進める。

状況に応じて適切に指導するにあたって、「発問」は授業のねらいに関わる重要なものとなる。「発問」で、子どもから多様な考えを引き出し、それらを類型化、構造化することができれば、授業のまとめに向けて焦点化していくことが可能である。

指導の際に教師が「どのような発問」をし、それに対して子どもが「どのような反応をするか（どんな効果があったのか）」を視点として、校内授業研究を進めていきたい。

検証の視点の例として、

- ①一問一答にならないよう、ねらいに沿って、多様な考えが出し合える発問になっていたか。
- ②児童の実態や発達段階を踏まえ、一人一人を生かす(学びに向かう)発問になっていたか。
- ③少なく問いかけ、多くを答えさせるような発問になっていたか。
- ④児童間で話し合いが始まり、深まるような発問になっていたか。

が挙げられる。国語科の特性を踏まえ、適切な「発問」について、研究チーム・学年団で吟味したり、授業研究を通して検討したりすることで、教師の「授業力」向上を目指す。

また、学級実態に合った方法・達成の手立て等を考え、自身の業績評価(自己申告)書に反映し、子ども主体の学びづくりを行う。上半期と下半期で自己評価を行い、検証・授業改善のサイクルを実施する。

## ・国語科

### A 文章・図・表・グラフ等、情報を正確に捉える「読みの力」の育成

朝タイムで「キーワード」を見つけ、授業で「キーワード」に線を引く、関係性を矢印で整理しながら読む等、論理的な読み方が身に付くように指導する。

### B 学ぶ「目的・内容」に対する理解を深める「かく活動」の充実

考える力を高める表現活動の工夫、ノートモデルの作成と指導、論理的に思考できるワークシートの工夫を行う。

### C 学びの「つながり・広がり・深まり」を生み出す「話し合い活動」の充実

思考力・表現力を高めるための問いかけや言語活動、協働的な学びの場を位置付けた問題解決的な学習指導過程の工夫、学びのファシリテートを行う。

### D 「学習目標(めあて)」とつながる「学習指導・評価(一体化)」

学びの系統性を明らかにし、形成的評価を行う。結果的な評価を行うのではなく、評価を指導に生かせるよう単元を見通した評価・指導計画を作成する。

検証の視点		検証方法 (例)	今年度目標
子どもの姿	教師の働きかけ		
①自ら問いをもち、考えている。	A: 課題設定や課題解決に関わる自己決定の場面をつくっている。	・授業での子どもの学びの姿の見取り ・授業評価表 ・ノートの記述内容 ・ワークシート等の記述内容 ・調査統計, 単元末テスト	○教師アンケートの肯定的な回答 80%  ○「思考・判断・表現」の観点で全国平均以上の児童 80%  ○「算数科, 国語科の見方・考え方」を生かしたノートをつくったり, 振り返りをかいたりすることができる児童 80%
②考えたことなどを, 伝え合い・聴き(訊き)合いながら, 広げたり・深めたりしている。	B: 児童の考えを広げたり深めたりする場面を設定したり, 効果的な問いかけを行ったりしている。		
③(見通しを立てたり, 振り返ったりしながら)粘り強く学んでいる。	C: 「めあて」をもとに, 自分の達成目標に照らし合わせて自己評価を行っている。		

## 《学びづくり案》

- (1) 通常学級については、教師主導の学習指導案ではなく、子ども主体の学びづくりに必要な内容を集約し、単元全体を捉えた学習過程案（A 4…2枚程度）を作成する。
- (2) 校内研修計画（別紙提案）に沿って、学年主任を中心にチャレンジ単元等について話し合い、学年で計画的に学びづくり案の作成や検討、模擬授業等の授業準備を行う。
- (3) 本時の子どもの姿（学びの様子・めざす姿）や学びづくりのポイント（教師の働きかけ）に、本時の目標や展開案を加えた学びづくり案とワークシート・座席表・本時の教科書コピーを研修日の10日前までに研究主任へ簡易起案をつけて提出する。
- (4) 学年主任を中心に、学びづくり案検討を先に述べた起案日の1週間前までに行う。
- (5) 学年で事前授業（校内研修で本時案を行わない同学年の別学級で予め行う授業）を校内研修日の3日前までに実施すること。事前授業を実施する際には、実施する週の週案作成前に、管理職・教務主任・研究主任等教職員へ事前に伝えておく。
- (6) 学びづくり案検討後、本時の展開や本時の子どもの姿など変更した箇所があれば、その部分を訂正して研修日の前日朝までに研究主任へ提出する。
- (7) 学びづくり案の印刷・研修の準備は、教育研究部の所属者で分担して行う。